断章

旭川のアイヌ語地名研究

(143)

高橋 基

今年のアイヌ語地名探訪

前回までは、「伊野川から忠別川までの地名」として、石狩川筋のアイヌ語地名について、「忠別川」まで詳述してきた。次回からは、再び石狩川本流筋のアイヌ語地名について記述する。

今回はその節目の回として、私が所属するアイヌ語地名研究会で、毎年実施している、「アイヌ語地名探訪」の紹介をさせいただく。

アイヌ語地名研究会では、毎年一回、大型観光バスを利用して、「アイヌ語地名探訪」を実施している。昨年は、積丹半島東部海岸で、参加者は五十四人。今年の一回目は、七月二十日(土)、札幌駅北口に集合し、貸切バスで、平取町二風谷の二風谷アイヌ文化博物館、萱野茂二風谷アイヌ資料館、平取町アイヌ工芸伝承館等の見学をした。現地のアイヌ語地名については、博物館の学芸員の丁寧な説明をいただいた。筆者にとっては、昭和五十三年以来の再訪で、二風谷ダムの誕生で、二風谷の変化に感慨深いものがあった。

今年の当会の「アイヌ語地名探訪」は、例外的に二回開催されることになった。たまたま昨年の第二十二回アイヌ語地名研究大会で、旭川工業高等学校放送局が制作した、「カムイコタン～神が住む場所」(EigaWorldcup2017—NPO法人映画甲子園賞受賞作品)を放映したところ、旭川のカムイコタンを訪ねたいという要望が多く、当会初の年二回の「アイヌ語地名探訪」として実施することになった。

「旭川のカムイコタン探訪」は、十月五日(土)に実施。平取町同様に、札幌駅北口発着のバスツアーで、札幌北ICから高速道路で、深川ICで降りて、国道十二号でカムイコタンへ到着し、**写真①**の記念撮影をして、神居大橋を渡り、旧神居古潭駅舎の見学等をする。その後、旭川市博物館、川村カ子トアイヌ記念館を見学し、札幌に帰った。

写真①　旭川のカムイコタン

さて、今年の上川のアイヌ語地名探訪の最大の出来事は、**写真②③④**の(一社)北海道開発技術センター主催の「松浦武四郎の足跡とアイヌ語地名を辿るモニターツアー」である。このモニターツアーは、アイヌ語地名研究会同様に、札幌北口発着のバスツアーであるが、旭川で一泊し、二日目は、安政五年(一八五八年)に松浦武四郎が美瑛町から上富良野を通り、十勝へ山越えした、美瑛町と上富良野町のルートを「実際に歩く」ツアーである。

写真②　モニターツアーパンフ

十月十九日(土)は、旭川のカムイコタンを探訪、その後、旭川市博物館の見学、続いて川村カ子トアイヌ記念館では、アイヌ文様の制作実習の体験学習があり、最後は、嵐山伝承のコタンを見学、この日は、旭川のホテルで宿泊した。案内には、旭川市教育委員会の友田哲弘さんがあたられた。

翌十月二十日(日)は、当連載(123)で紹介した、「松浦武四郎の十勝越え歩く会二〇一八」で、山中二泊して、見事に十勝越えを果たした、上富良野町の「トカチルウチシを歩く会」代表の山谷圭司さんが中心となって、松浦武四郎が歩いた美瑛町と上富良野町のルートの一部を実際に歩いた。

写真③　美瑛町—新栄の丘

写真④　上富良野町—日の出公園

ガイドには、美瑛町郷土史料保存会代表の菅野勝見さん、丘のまち美瑛DMOの小倉博昭さんも加わり、懇切丁寧なご案内があり、特に、十勝岳ジオパーク推進協議会が作成して下さったカラー版のガイドノートは、出色のものであった。その上、道中二回の「おもてなし」にも、参加者は感激していた。

実に画期的なツアーで、このツアーの今後の継続を期待したい。

(アイヌ語地名研究会幹事)

※毎月第1週号に掲載します